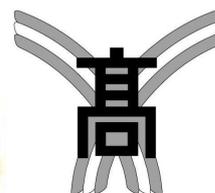


# AL道中膝栗毛



## 【協同学習について考えてみます②】

自分の意見を持ち、他者と対話することを通じてお互いの学びを最大限に高めようとする学習形態のことを「協同学習」と言います。前号のAL通信は、そもそも「キョウドウ」にはどの漢字を使うべきかという話題に触れました。一般には共同・協働・協同などが使われます。



違いについては正直はっきりしておらず、根拠をもって明確に示した資料も見つけれませんでした。それらしい意見もなくはないのですが、それもあくまでも発言者の持論以上のものではないように感じます。以前「アクティブラーニング」と「アクティブ・ラーニング」は違うのかという議論がありましたが、これも同じようなものかもしれません。

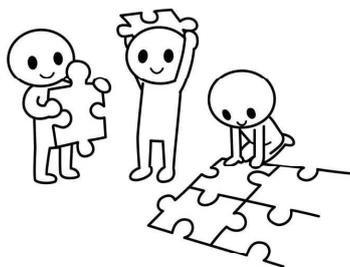
しかしそれでも、本校で足並みをそろえてキョウドウ学習を推進していくのであれば、これはそれなりに重要な問題だと考えます。結論として、**委員会では「協同学習」という名称を用います。**

共同・協同・協働ですが、イメージとしては「共同———協同≒協働」です。「共同」は複数の人が同じ条件で何かをすること、「協同」は複数の人が力を合わせて何かをすることです。比較すると、「協同」はお互いの利益のために必ず力を合わせますが、「共同」は必ずしも力を合わせるとは限りません。共同トイレはみんなが一緒に利用しているだけで、別に協力しているわけではありません。

それに比べれば、「協同」と「協働」は、かなり意味が重複します。厳密な使い分けはないようですが、ここは「働」の字に注目します。辞書によると協働は「対等の立場で協力して働くこと」とありました。官民協働など、労働や、それにとまなう利益が関連する場合に使われることが多い言葉です。対して協同は働くとは限りません。労働ではなく普通の行動でも協同という言葉は使いますから、**協同のなかに「協働」がある**というイメージでしょうか。

繰り返しますが、明確な定義はないようです。しかし本校においては、協力して学ぶという意味で「協同学習」と呼称します。

ではこの「協同学習」、実際の授業ではどのような活動や学びを指すのでしょうか。これこそが今年度の学力向上推進事業の肝であり、先生方と「協同して」考えていくべき問題です。



## 【教員アンケートを実施します】

「教員対象アンケート」を実施します。対象は、講師の先生を含む授業を担当される全ての先生です。教科主任の先生は、講師の先生方への連絡と実施をお願いいたします。

**提出は教務室です。提出されたら、名票に○をつけてください。**